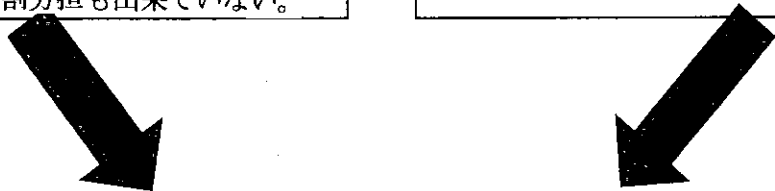


職員による自己評価

- A 環境面
  - ・バス送迎時間に教室内のスタッフが少なくなり手薄になってしまう。
  - ・子供たちが全員揃った時教室が狭く感じる時がある。
- B 児童への支援内容
  - ・毎月プログラム内容は違うものを提供し、また子供たちの希望するものも取り入れるようにしている。
- C 関係機関との連携
  - ・学校訪問支援として1～2か月に1回訪問し情報や支援方法を共有している。
- D 保護者への説明責任・信頼関係
  - ・送迎時に教室での様子を話したり、連絡帳で伝えている。しかし自宅での様子など情報を得ていない。
- E 非常対応
  - ・年に1～2回防災訓練として防災の紙芝居、かるた、クイズ形式で子供たちに避難方法は伝えているが、行動レベルでの訓練は出来ていない。また災害時職員の役割分担も出来ていない。

保護者による評価

- A 環境面
  - ・やや狭いと思う。
  - ・どんな先生が何人いるのか把握できていない。
  - ・門、玄関前の階段に手すりがない。
- B 児童への支援
  - ・児童クラブや児童館との交流や障害のない子供と活動する機会は交流があった方がいいと思っている方と、無い方がいい、特に必要としていないと両方の意見があった。
- C 事業所からの情報発信
  - ・保護者会があるのか不明。
  - ・同じ悩みを持つ方と交流したい。
  - ・子供の様子が面接時に伝えていただけだが、日頃からという感じではない。
  - ・ホームページを見ない。
- D 非常対
  - ・緊急防犯、感染対策マニュアルに対されていない、よくわからない答が多い。



事業所内での分析

- 【共通点】
  - ・日頃から子供の状況を保護者に伝え合い、子供の発達の状況や課題についての共通理解をすることが、送迎時間だけになると限られた時間であり、情報共有までは出来ていない。
  - ・職員の配置数や専門性について保護者会等の開催が最近出来ていないこともあり、また初めて顔を合わせるときに簡単な自己紹介のため、詳しい情報提供は出来ていない。
  - ・緊急時対応、防犯、感染対策等についても事業所からの発信を積極的に行っていないこともあり、保護者の方の理解が得られていない。
  - ・支援方法について毎月違うプログラムを組んでいるが、低学年高学年ともに同じ様な活動を組み入れていたため、物足りなさが生じていた。
- 【相違点】
  - ・インターネットで活動の予定等を発信しているが見ていない方もいる。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・臨床心理士、看護師等の有資格者が多く在籍している。
- ・セミナー開催やコグトレ横浜支部としても活動。
- ・戸建てで家庭的な雰囲気である。

### 事業所の改善点

- ・保護者会や保護者への学習会等の定期開催を予定する。
- ・職員紹介を教室入り口に掲示し、保護者にも紙面やインターネットを利用し知ってもらえるように工夫する。

### 事業所の改善への取り組み

- ・保護者とのコミュニケーションが取れるように日頃から連絡を取り合い、積極的に関わりを持ち、子供の情報交換や共有ができるようにする。
- ・子供の活動予定、保護者会または保護者への学習会開催、防災訓練の予定等年間計画を立てお知らせする。
- ・職員紹介を作成する。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

・支援者として日々接していることをなかなか保護者に言葉で伝えることが難しいと感じました。また保護者が事業所に対して知らないことがあることは、子供を預けるうえではとても不安なことだと思います。言葉で伝えることの難しさ、子供だけの支援でなく保護者を含めた支援であることを改めて考えることができ、これからの支援に活かしていきたいと思います。

事業所名 ACO 放課後等児童施設 支援室  
担当者 中村 三奈美